

令和7年度宇部市公共交通協議会 第3回会議 会議録

日 時：令和7年（2025年）12月23日（火） 10:00～11:35

場 所：宇部市役所 市民交流棟2階 会議室A・B

出席者：15名（欠席者3名）

榊原会長（国立大学法人山口大学大学院）

三戸副会長（宇部市自治会連合会）

大谷委員（宇部市交通局）代理 古谷様

綿部委員（船木鉄道株式会社）

芳野委員（宇部山電タクシー株式会社）

秋野委員（宇部第一交通株式会社）

西嶋委員（西日本旅客鉄道株式会社）

國宗委員（中国運輸局山口運輸支局）

渡壁委員（山口県宇部土木建築事務所）

梶山委員（山口県宇部警察署）代理 藤野様

吉富委員（宇部交通労働組合）

田村委員（山口県観光スポーツ文化部交通政策課）代理 磯部様

齋藤委員（宇部商工会議所）

石崎委員（社会福祉法人宇部市社会福祉協議会）

磯中委員（宇部市都市政策部）代理 渡辺次長

事務局：4名

交通政策課 新原課長、和田副課長、松本係長、坂倉係員

次 第：1 議事

- (1) 宇部市公共交通協議会の会長、副会長、監査委員の選任
- (2) 令和7年度地域公共交通確保維持改善事業（地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金）に関する事業評価
- (3) 桃山地域コミュニティタクシー（鵜の島ルート）の運行日の変更について
- (4) 令和8年度地域公共交通確保維持改善事業（地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金）に関する計画の変更について
- (5) 令和7年度事業計画及び予算の変更について
- (6) 臨時便（北向地蔵及び白石墓地）の路線廃止について（宇部市交通局）

その他（報告）

- ・貸出図書返却サービスの終了について（宇部市交通局）
- ・バス・タクシー運転士体験会&就業説明フェアの実施結果報告
- ・路線バス運賃100円デー実施結果報告
- ・北部地域公共ライドシェア実証事業経過報告
- ・小中学生バス運賃無料化事業経過報告

2 その他

1 議事

(1) 宇部市公共交通協議会の会長、副会長、監査委員の選任 [承認]

事務局の推薦により、会長に榊原委員を選任した。榊原会長の推薦により、副会長に三戸委員、監査委員に綿部委員と齋藤委員を選任した。

(2) 令和7年度地域公共交通確保維持改善事業（地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金）に関する事業評価 [承認]

事務局から、資料について説明を行った。意見等については、以下のとおり。

【会長】

実際に運行を担っている事業者の皆様から、各事業の実施状況についてお話しいただきたい。

【宇部市交通局】

宇部市交通局では、東部市内循環線（めぐりーな）と市街地循環線を運行している。目標の4項目中1項目のみの達成であったが、いずれも経常収益の目標を上回った。経費が増加したことから収支率は落ちていて、合わせて財政支出の目標も達成できなかった。また、年間利用者数についても達成できておらず、主に周知活動をもって利用者を増やし、今後の目標を達成していきたいと考えている。

【船木鉄道(株)】

船木鉄道では、宇部市北部地域において吉部・万倉線を運行している。目標はいずれの項目も達成できていないが、昨年度から利用者数と運行便数ともに増えている。利用者数は、令和6年度は921人、令和7年度は1,044人で、前年度比113%。運行便数が、令和6年度は653便、令和7年度は731便で、前年度比112%。運行日数は、令和6年度は200日、令和7年度は202日で、前年度比101%となっている。10月から3月については、前年同時期とほとんど変わりなく推移していたが、4月から9月にかけて利用者数と運行便数が増えている状況であった。

【宇部山電タクシー(株)】

コミュニティタクシーの西宇部線、厚南線、藤山線を運行している。利用者数は前年度と同程度に推移しているものの、増加に転じることはなかなか難しいところである。そのような中で、令和6年10月に西宇部線に停留所を新設していて、これまではなかなか利用者がいない状況であったが、8月頃から徐々に利用者が出てきているので、今後に期待できるかと思う。また、宇部市選挙管理委員会の取組として、期日前投票時にコミュニティタクシーを使った移動支援を実施した。令和6年度には利用者がいたが、令和7年度は残念ながら利用者がいなかった。その他、運転免許証の自主返納者へのお試し無料乗車券配付について、令和6年度は延べ12名の利用があったが、令和7年度は、今のところ利用がない状況である。

【宇部第一交通(株)】

コミュニティタクシーの原線、桃山線、東岐波線を運行している。原線については、地域の自治会等の皆様が非常に熱心に取り組みされていて、年に2回程度会議を開催し、色々な取組を検討されている。そのようなこともあり、利用者数と収入の目標を達成している状況である。また、ジャンボタクシーの活用も目標達成の大きな要因であっ

たと思う。東岐波線は、令和6年10月に停留所の新設と運行ルートの変更を行っている。今後も、地域の皆様の要望に少しでも応えていければと考えている。

【会長】

いずれも収支率と財政支出の目標達成が厳しい状況にあると思うが、人件費や燃料費等の経費の増大が要因か。また、特に人件費等の増大については避けられないものと思うので、今後の計画立案において、人件費等の経費の増大を織り込んだ上で、目標を設定することは可能か。

【事務局】

ご指摘のとおり、人件費や燃料費等により運行経費が年々増大していることが、収支率低下と財政支出増加の要因となっている。フィーダー系統に係る目標は、計画策定時点の直近年度の運行経費をベースに算出している。運行経費が年々増大する傾向にある中で、増大率を踏まえて計画及び目標を設定していくことも検討させていただきたい。

【会長】

山口運輸支局の方からご意見等あればお伺いしたい。

【山口運輸支局】

毎年度粘り強く施策を続けていて、事業評価の適切性はすべてAの自己評価となっているが、目標及び効果達成状況は、一部達成のBまたはすべて未達成のCとなっている。粘り強く続けている施策とともに、新しい取組についても可能な範囲で検討いただきたい。地域公共交通計画と補助制度の連動化により、評価の指標が利用者数や財政支出、収支率となっている。今後も、公共交通を取り巻く状況は厳しいと思うが、令和8年度についても、今回の評価をもとに引き続き取組を行っていただきたい。今回の評価は、宇部市公共交通協議会において採決された後に、学識経験者及び担当部長からなる第三者評価委員会での意見・助言を踏まえ、中国運輸局が二次評価を実施する。二次評価の結果は、宇部市公共交通協議会に通知することになっている。その結果についても、令和8年度の施策に反映していただきたいと思う。

【会長】

各事業者にご努力いただいていること対して、改めて感謝を申し上げたい。現在の経済状況や運転士不足の中にあっても、やはり待遇等も出来る限りのことはしていかなければならない。率直なところとして、そのような状況においては、経費を削減できる要素は現状ではなかなか無いのではないか。国の制度設計としては、利用者を増やすだけでなく、財政支出も減らさなければならないというところがあるが、両立は非常に難しい状況にあると思う。おそらく、国においても今後の制度の在り方等を議論される中で、経済状況を反映した費用算定や費用の考え方等についても議論いただきたいと思っている。学会においても、財政支出減と利用者増を両立することはなかなか難しいのではないかという意見が出ていて、今後、中央における議論を期待したい。

この件について、承認としてよろしいか。

異議なし。

- (3) 桃山地域コミュニティタクシー（鵜の島ルート）の運行日の変更について [承認]
事務局から、資料について説明を行った。意見等については、以下のとおり。

【会長】

運行日の変更について、すでに地域では同意されているのか。

【事務局】

桃山地域コミュニティタクシー運営協議会において、すでに同意されている。

【会長】

この件について、承認としてよろしいか。

異議なし。

- (4) 令和8年度地域公共交通確保維持改善事業（地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金）に関する計画の変更について [承認]

事務局から、資料について説明を行った。意見等特になし。承認。

- (5) 令和7年度事業計画及び予算の変更について [承認]

事務局から、資料について説明を行った。意見等特になし。承認。

- (6) 臨時便（北向地蔵及び白石墓地）の路線廃止について（宇部市交通局） [承認]

宇部市交通局から、資料について説明を行った。意見等については、以下のとおり。

【会長】

臨時便のため運行回数が少なく、周知のタイミングが限られると思う。利用者への周知について、どのように考えているか。

【宇部市交通局】

北向地蔵の臨時便については、令和8年1月24日の運行の前から、バス停留所への掲示により周知を図るとともに、ウェブサイトにて廃止する旨を掲載する。また、車両の運用を確認した上で、可能であれば同日の運行時にバス車両内にもポスター等を掲示したいと考えている。白石墓地の臨時便については、各方面からの便があるためバス車両内での周知は難しいところもあるが、バス停留所への掲示により周知を図る。年度内の運行が3月の春分の日のみとなるため、利用者に気付いてもらえるように、しっかりと掲示するとともに、ウェブサイトにて廃止する旨を掲載したいと考えている。

【会長】

臨時便の性格的に、ウェブサイトでの周知はあまり効かないものと思うので、バス停留所や、可能であればバス車両内など、現場での周知を十分に図っていただきたい。

この件について、承認としてよろしいか。

異議なし。

その他（報告）

- ・貸出図書返却サービスの終了について（宇部市交通局）

宇部市交通局から、資料について説明を行った。意見等については、以下のとおり。

【会長】

私の記憶では、コロナ禍の少し前に公共交通のコンソーシアムというものを作り、色々新しい取り組みを検討する中で、貨客混載の可能性を探るためにまずは無料で開始し、その後、コロナ禍の時期に有料化したという経緯であったものと思う。このような取り組みはトライ&エラーであり、上手くいかなければ変えていくということは問題ないものと思う。貨客混載については、宅配便との連携やタクシー事業者など、全国的には多く事例があり、過疎地などで上手くいっているところもあるように聞いている。貨客混載のシステムを上手く組んでいくことが大事であると思う。

・バス・タクシー運転士体験会&就業説明フェアの実施結果報告

事務局から、資料について説明を行った。意見等特になし。

・路線バス運賃100円デー実施結果報告

事務局から、資料について説明を行った。意見等については、以下のとおり。

【会長】

まだ数値は出ていないものと思うが、12月20日実施分の利用状況はどうだったか。また、雨の影響はあったか。

【事務局】

バスの運転士や営業所への当日の聞き取りでは、普段の土曜日と比べて多くの方に乗車いただいているという声があった。やはり運賃を100円とすることにより、ある程度利用者が伸びているところかと思う。また、雨の影響については、夕方からのイベントは中止となったが、日中のイベントは予定通り実施されている。

【会長】

これまでの路線バス運賃100円デーは、宇部まつりなど大規模なイベント時に実施していて、多くの方が初めからお祭りに行こうと決めている中で、移動手段が車からバスに移ったという効果があったと思う。12月20日の場合は、比較的規模の大きくないイベントであり、路線バス運賃100円デーがなければ、そもそも中心市街地に出てこなかったということもあり得ると思う。宇部まつりのような大規模なイベント時と、少し小規模なイベント時それぞれで評価が出来ると思う。

・北部地域公共ライドシェア実証事業経過報告

事務局から、資料について説明を行った。意見等については、以下のとおり。

【委員】

ドライバーの中に法人とあるが、どのような経緯、形態となっているのか。また、住民がドライバーを担う中で、利用したい日にドライバーの予定が合わず、マッチングが出来なかったといったケースは出ているのか。

【事務局】

二俣瀬地区の社会福祉法人2社にドライバーとしてご協力いただいている。地域で活動されている社会福祉法人であり、地域貢献をされたいという思いも持たれており、宇部市が小野地区においてこのような事業を実施している中で、ドライバーとしてご

協力いただいているという側面もある。

また、現在のドライバーは14名であり、運行シフトについては比較的充足している状況となっている。どの時間帯においても、利用希望があれば運行できる体制はある程度整ってきている。しかしながら、利用者が増え、同時時間帯や近い時間帯に複数の利用希望が入る状況となれば、ドライバーは不足するという事も生じるため、今後も引き続き、複数の時間帯や曜日に運行していただけるドライバーを確保していきたいと考えている。

・小中学生バス運賃無料化事業経過報告

事務局から、資料について説明を行った。意見等については、以下のとおり。

【会長】

実績としては非常に多いと感じている。夏休みが終わってからも、特に中学生が多く利用しているようなので、どのようなことに利用しているのかということぜひ把握していただきたい。宇部市としては、部活動の地域展開との関係なども考えていると聞いている。私も分析をしているが、色々な可能性を秘めた施策と思う。学会などで話をした際にも興味を持たれ、このような施策は事例が少なく、注目され得るものだと思う。もちろん副作用もあるかも知れないので、そのような点も含めて検証することが大事ではないかと思う。

【船木鉄道株】

船鉄バスの対象路線は、船木～宇部市役所、際波台～宇部駅となっているが、小野田方面から宇部市内の中学校に通学している方から、厚狭駅～宇部中央の路線で利用したいという問い合わせがあった。実数としてはおそらく少ないと思うが、そのような声もある。

【会長】

運行ルートとして、調整の要素が大きいものと思う。山陽小野田市が実施している小野田線と船鉄バスの共通乗車の取り組みなど、色々なことを考える必要がある問題であると思う。

【事務局】

会長からご説明のあった通り、色々な兼ね合いがあり、なかなか対象路線を広げられないということがある。また、対象路線は、高齢者バス優待と同様に設定していて、なかなかこれ以上路線を広げることは難しい面がある。しかしながら、このようなご意見は大事であると考えており、いつでも反映できるように構えておきたいと思う。

【会長】

やはり鉄道もあるので、色々な公共交通全体として考えなければならないところはあると思う。通学手段をしっかりと守っていくということは非常に重要であり、色々な交通モードが協力していける体制が良いと思う。

2 その他

事務局から、次回協議会（1月開催予定）について案内した。

その他の報告及び意見等については、以下のとおり。

【船木鉄道㈱】

船鉄バスにおいて、令和8年2月2日から、クレジットカード等のタッチ決済による乗車サービスを開始する。クレジットカードや電子マネーによるタッチ決済の他、QR・バーコード決済も対応している。交通系ICカードは非対応である。また、このことに伴い、磁気式のバスカードを段階的に廃止する。令和8年1月31日にバスカードの販売を終了する。同年4月20日にバス車内での取り扱いを終了し、同年5月1日から払い戻しを開始する。5年後の令和13年4月30日をもって、払い戻し対応を終了する。

以上